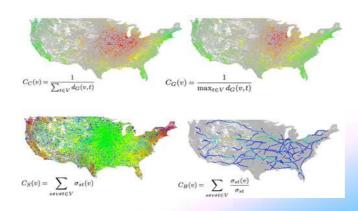
## SS研ニュースレター選集

vol.15







## ニュースレター選集について

◆ 「SS 研ニュースレター選集」は、サイエンティフィック・システム研究会 (SS 研)の分科会活動の活動報告として、1年間の講演資料から代表的な ものを選出して冊子としたものです。

毎年 5 月の SS 研通常総会に合わせて発行しています。 下記よりダウンロードできます。

http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/ 資料ダウンロード ニュースレター選集

◆ 分科会活動の講演資料は SS 研 Web サイトに掲載しています。 (一部 SS 研会員限定)

http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/ 資料ダウンロード ニュースレター

## 表紙画像



右上	提供:慶応義塾大学 田中様
	デジタルファブリケーションと学び
左上	~ファブ社会における3Dプリンタ教育~ より
下	提供:九州大学 藤澤様
	スーパーコンピュータを用いた大規模
	グラフ解析 Graph500 ベンチマーク より

## | **ニ** | ュ | ー ス レ タ | 一 選 集 Vol. 15 | **目** 次

(敬称略)

◆巻頭言 サイエンティフィック・システム研究会 会長 村上 和彰 (九州大学) 1 I. 総会 選出 ■ 人への投資を触媒とするビッグデータからの価値創出 5 樋口 知之(情報・システム研究機構 統計数理研究所) Ⅱ.システム技術分科会 選出 ■ マネジメントシステムの情報セキュリティ版がもたらすもの-信頼?姿勢?安心?-19 上田 哲史(徳島大学) ■ 学内情報基盤のネットワーク管理の法的側面と最新動向 31 高橋 郁夫(駒澤綜合法律事務所) Ⅲ. 教育環境分科会 選出 ■ デジタルファブリケーションを利用した新たな学びのかたち 41 田中 浩也 (慶応義塾大学) ■ M000 のインパクトと可能性 - JM00C 講座「オープンエデュケーションと未来の学び」の事例から -53 重田 勝介 (北海道大学) Ⅳ. 科学技術計算分科会 選出 ■ 新ベンチマークプログラム:HPCGの概要と「京」における性能 67 南一生(理化学研究所) ■ スーパーコンピュータを用いた大規模グラフ解析と Graph 500 ベンチマーク 81 藤澤 克樹 (九州大学) V. 合同分科会 選出 ■ 女子大学の日常に溶け込む I(T 研究教育事例 95 伊藤 貴之 (お茶の水女子大学) ■ 音声つぶやきによるサービス業務の気づきの収集と活用 103 内平 直志(北陸先端科学技術大学院大学) 2014年度活動一覧 ♪ご参考 113 ◆編集後記 広報委員会 委員長 野田 茂穂(理化学研究所) 121 口当冊子に記載された機関名、所属名、役職名および原稿の内容は、発表/執筆当時のものです。 □登録商標について

会社名、機関名、製品名は各社、各機関の商標または登録商標です。

サイエンティフィック・システム研究会会長村上 和彰(九州大学)

サイエンティフィック・システム研究会(SS研)は、大学や研究所などの科学技術分野におけるコンピュータ利用機関を主体とした研究会として1978年に設立されました。以来36年間、会員の相互利益を図ることを目的に、各種の分科会やWGなどの活動を通じて、コンピュータのシステム技術、応用技術、利用技術に関する質の高い情報共有・情報交換、そしてユーザとベンダーとの間での高度な議論の場として機能しています。これらのうち分科会活動の内容は『ニュースレター』で随時ご紹介しているところです。

この1年間のSS研の活動を振り返ってみますと、本冊子の巻末の活動一覧にあります通り、分科会、WG、タスクフォースともいずれも時宜を得た企画であり、有益な講演やディスカッションを行うことが出来たと思います。その中でも特に会員の皆様のご参考となると思われる講演資料を、皆様からのアンケート結果を参考にしながら選び出したのが、この『ニュースレター選集』です。今後開発されるエクサスケールスーパーコンピュータ活用に向けた科学技術最先端のテーマはもちろんのこと、加速するビックデータやセンシング技術の活用、セキュリティ面では大学のインフラ構築のマネジメントシステムや法律面での現状と課題、またオープンエデュケーション、デジタルファブリケーション、情報学系での女性の活躍など学びの場へのITの拡がりと変化等、旬なテーマを反映した選集になっているかと存じます。

15年にもわたって『ニュースレター選集』を発刊でき、今号第 15 巻を、会員の皆様に通常総会でお渡しできることは大きな慶びでございます。2009年発刊の第 9 巻からは、会員以外の方にも広くご覧頂けるようになりました。SS 研の活動成果を会員が活用されるのと同様に、会員外へも積極的に情報発信することによって広く社会に役立てる方針の一環です。これもひとえに、活動に熱心にご参加頂いている会員の皆様、広報委員および関係者の方々のご理解・ご協力によるものであります。ここに厚く感謝するとともに、この選集が広く活用されることを願って止みません。